

矢田津世子 小説家。昭和10年代をそのまま代表するように生き、早世した。

やだつせこ

韓国反日暴動1907 = 秋田県南秋田郡五城目町で、町助役矢田鉄三郎の四女に生まれる。母はチエ。本名ツセ。

明治天皇没・1912 = 5歳：

第一次大戦始1914 = 7歳：五城目尋常小学校に入学。
21ヶ条要求・1915 = 8歳：父が助役を辞めて、一家で秋田市に移り、
民本主義・・1916 = 9歳：家族とともに、上京。

原敬首相暗殺1921 = 14歳：

関東大震災・1923 = 16歳：この年、兄不二郎が東京帝大に入学。

護憲三派圧勝1924 = 17歳：鞠町高等女学校を優等で卒業。

治安維持法・1925 = 18歳：日本興業銀行に就職、
この間に、兄弟4人と父を失う。

金融恐慌・・1927 = 20歳：退職。兄不二郎の転勤に伴い、母とともに名古屋に転居し、

世界恐慌・・1929 = 22歳：『女人芸術』名古屋支部員となり長谷川時雨らと交流、作家の道に入る。『新愛知』『名古屋新聞』などに「たつ江の見たもの」「街に動く女」など、「女人芸術」に「反逆」などを発表、左翼作家として注目され、
海軍軍縮条約1930 = 23歳：*『夏を跳び越える女』が『文学時代』の懸賞小説に当選、文壇にデビューした。このころ生涯親交を結んだ作家大谷藤子と出会う。

満州事変・・1931 = 24歳：単身、上京。

五一五事件・1932 = 25歳：兄の東京転勤に伴い、母と3人で暮らす。坂口安吾と出会う。
国際連盟脱退1933 = 26歳：共産党へ資金カンバして特高に検挙され、以後体調崩す。内面的転機を経験。モダン派から純文学へ転身すべく、坂口・田村泰次郎らの同人誌『桜』に参加、安吾との関係が始まる。『日暦』『人民文庫』に参加。

帝人獄事件1934 = 27歳：武田麟太郎に師事。

一二六事件・1936 = 29歳：*安吾との関係を断つ。『人民文庫』に発表した「神楽坂」が芥川賞候補となり、第1回人民文庫賞を受賞。

日中戦争始・1937 = 30歳：短編集『仮面』、

健保+総動員 1938 = 31歳：『秋扇』が松竹で映画化され「母と子」と題して封切り。

第二次大戦始1939 = 32歳：短編集『花陰』、

大政翼賛会・1940 = 33歳：長編小説「家庭教師」「巣燕」、『家庭教師』も松竹が映画化。

日米開戦・・1941 = 34歳：短編集『女心拾遺』。最高傑作とされる「茶粥の記」、

・・・・・1942 = 35歳：短編集『鴻ノ巣女房』などを出版。*川端康成から寄稿を求められて執筆するも掲載されず、ショックを受け、それまでの無理な執筆もたたって病臥、

創価学会検挙1943 = 36歳：

年金+総武装 1944 = 37歳：『結核のため、没した』。

安吾の「二十七歳」「三十歳」は津世子との出会いと訣別を描いた小説。